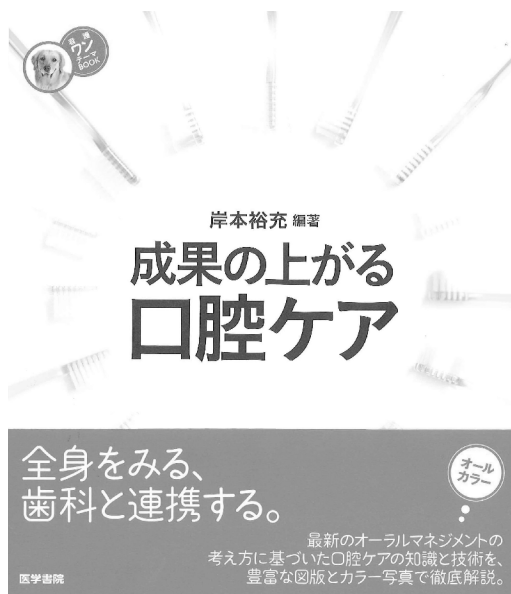




《看護ワンテーマBOOK》 成果の上がる口腔ケア

岸本裕充 編著

定価1890円(本体1800円+税5%)
医学書院 ☎03-3817-5657

『看護ワンテーマBOOK』の一環として岸本裕充氏編著による『成果の上がる口腔ケア』が医学書院から上梓された。このシリーズでは1つのテーマを掘り下げていくが、決して大上段に振りかぶったものでなく、実践に用いられる知識・技術が解説されている。口腔ケアをテーマとした本書は、歯科を専門としない看護師をはじめとする医療者向けに、上記の目的を十分に達しているものである。

なぜか？がわかる実践的記述

口腔ケアあるいはオーラルマネジメントの目的について、岸本氏は明確に「歯

垢の除去」としているが、そのためには菌垢の実態を理解しなければならない。そこで、誰もがわかるような表現を使って菌垢の本態を明らかにしている。なぜ歯ブラシを使わなければならないのか、なぜ指で拭いても菌垢は取れないのかということがよくわかる。さらに、全身への影響、とくに肺炎や糖尿病との関係について、臨床に則した口腔ケアの必要性を挙げている。

口腔ケアを熱心に行なうなかで、無理やり舌苔(実は正常な粘膜も含まれている)を擦り取ろうとしたり、歯磨剤を口の中いっぱいにして磨こうとしたり、民間で評判になったお茶を与えたり、唾液腺マッサージをしたりしても、効果が目に見えず、挙句は患者さんに拒否された経験はないだろうか？

著者はこれらをやんわりと論じて、あまり無理をしないほうがよいと現実的な方法を明示している。それ以前に「アセスメントは完璧を目指す必要はない」と言い切り、むしろ継続することの重要性を強調している。また、どの段階で歯科医師や歯科衛生士の介入が必要かをはっきりと記しており、実践的である。

少し肩の力を抜いて「継続」しよう

実践に即して「その処置がなぜ必要か」

を基本に立ち返って解説できるのは、岸本氏をはじめとする著者全員が、実際に口腔ケアに携わっているからであろう。たとえば、アセスメントには「勘やセンス」が重要で、合計点で判断せずに大きな問題が1つでもあれば相談すべきなどは、豊富な経験から出てきた記述である。他家の報告を紹介してその妥当性を評価していることも、貴重な経験に裏づけられたものと言える。たとえば、がん治療中のクライオセラピーの適用についても冷静なコメントが付与されている。なお、本書では写真ばかりでなく本文や図表にもカラーを多用しているが、このことも理解を助けていると感じた。余裕を持たせたレイアウトは、読者に「心」の余裕をもたせてくれている。

これまで口腔ケアに及び腰だった看護師をはじめとする医療者に向け、本書はその重要性をわかりやすく解説しており、これから取り組もうとする際に強いモチベーションを与える。さらに、始めてはみたものの「教科書どおりにはいかない」「あの先生の話とはだいぶ違う……」と先行きに不安を覚える看護師に、「少し肩の力を抜いて続けましょうよ」というホッとさせられるエールを送ってくれる。